

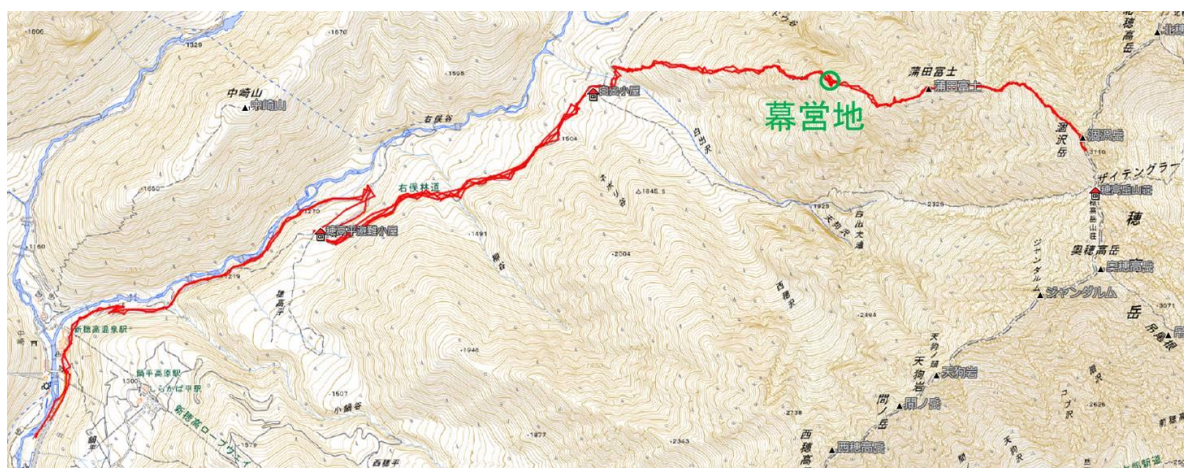
冬合宿 A 北アルプス：涸沢岳

- ◆日程 2023年12月29日(金)～31日(日)
 ◆メンバー L：TY、OY、OT、OB

以前吹雪で敗退している涸沢岳西尾根。アルピニストを目指すなら避けて通れないのが冬の槍穂エリア。その入門ルートが涸沢岳西尾根だ。厳冬期の槍穂は自分にはレベルが高いと諦めていたが仲間の力を借りて再度挑戦する事となった。結果は好天に恵まれ涸沢岳に登頂出来た。2024年もそれぞれの高みに向けてステップアップしたい。

(記：TY)

12月29日(金) 天候：雪のち晴れ



5:30に前夜泊に使った民宿ほらぐちを出発。素泊りで約3500だが温泉にも入れて非常に良い宿だった。ぐっすり眠れたおかげで体調は万全だ。宿から出ると細かな雪が舞っていた。夜の間も降ったようで、車や道の脇は少し雪を被っていたが量は多くなく、道路には積もっていない。新穂高の駐車場までも道路に積雪はなく路肩の雪も少ない。宿の方の話だと今年はやはり雪が少ないらしい。駐車場につき準備をしても、気温が高くあまり寒さを感じなかった。

6:30、まずは約2時間の林道歩きからスタート。20キロ近い荷物が肩に食い込む。荷物の重さと、本当に自分は涸沢岳まで登れるのか、という一抹の不安を胸にもくもくと歩いた。白出沢の手前でOTさんが穂高平小屋の休憩時にヘッドランプをしまい忘れたことに気づき、1時間近く歩いた道をとりに戻ると言って荷物を置いてきた道に戻っていた。自分だったら絶対に戻る気になれない、、、すごいなあと思いつつ、TYさんOYさんと先行することになった。(結局、ヘッドランプは行動食の中に入っていたらしい。笑。)

取りつきは写真で見た通りのトウヒの大木が目印になった。そこから急な尾根に入っていく。序盤は積雪が少なく、笹の藪漕ぎをする箇所がいくつかあった。雪でぬれた笹が滑る。歩みを進めると徐々に斜度がきつくなっていき、木の根や岩を手掛かりによじ登るような場所が出てくるようになった。帰り降りるのが怖いなあと思いつつ、荷物の重さでバランスを崩さないように注意しながら登っていった。標高を上げるにつれ天候も回復し、



木々の合間から真っ白な北アルプスの山々が見えて、明日は上まであがるのかと上がるのかと気持ちが高ぶった。

「テント場までOTさん追い付かなかっただら待ってるのが寒いですね」(※テントはOTさんが所持)「でも本当はテント持っている人と別行動したら駄目だよね…」「まあゆっくり登りましょう」などと会話しながら進んでいると、2200メートルあたりでOTさんの姿を発見し、テント適地の少し手前で合流した。

14:00頃テント適地に到着。どこかの大学の山岳会が大きなテントを2張りすでに張っていたが、なんとか場所を確保しテントを張ることが出来、テントの中でくつろぎながら翌日に向けて気持ちを整えた。

(記:OB)

CT:新穂高駐車場 6:30 - 穂高平小屋 7:40/8:00 - 白出沢出合 9:00/9:20 - 2198
地点 13:00-2360 地点テン場 14:00

12月30日(土) 天候:快晴

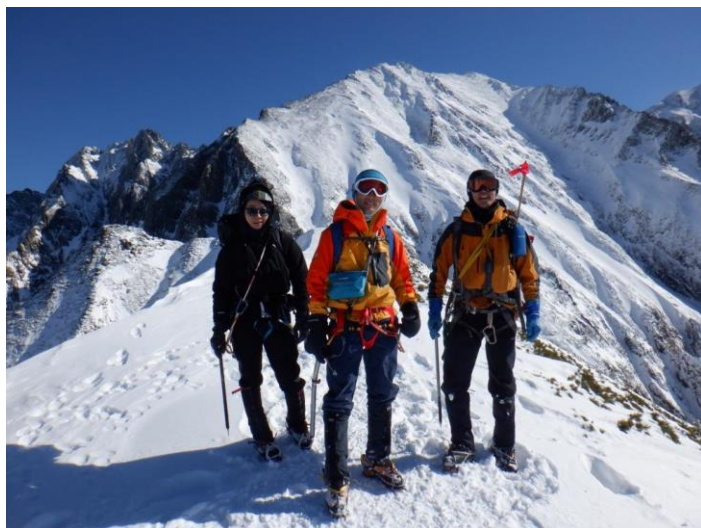
天気よく寒くない。登頂には絶好の条件だ。200m程樹林帯を急登。ピッケルをダガーポジションで突き刺しながらよじ登る。今回はアタックザックなので背中が快適。幕営地までプラス860gの歩荷となったが、その価値ありだ。

明るくなった頃に出た稜線ではまだ風は凩いでいる。蒲田富士の辺りから北風が吹きつけるようになってきた。山頂方面では地吹雪が舞っている。バラクラバとゴーグルで顔面を覆う。バラクラバは、これまで口鼻部分だけネオプレンのフリース製だったが、ゴーグルが曇り易く足元が不安だった。今回、薄手のジオライン製を使ってみたところ、全く曇らず快適。少々肌寒いですが、フードと併用していれば凍傷の心配は無さそう。



稜線では凍結した雪のナイフリッジと斜面、岩とアイスとのミックス帯、氷結したハイマツ帯、岩場が入れ替わり出現。刻々と変わる路面状況に確実なアイゼンワークが必要で、何れも失敗は許されない。

途中で顔見知りのパーティーに出会った。夏合宿の劔岳本峰南壁A2と9月の槍ヶ岳北鎌尾根でお会いした岩手県の北上山岳会の方々だ。半年以内に3度もお会いするとは不思議な縁で嬉しい驚き。



山頂は強い西風のため、絶景が名残惜しいが長居できない。記念撮影もそこそこ下山開始。私は少し遅れて降り始めたのだが、追いつく迄の間にTYさんがあわや滑落の事態に遭遇したとのこと。岩と氷の斜面の下りは、実に怖い。しっかりとした歩行とアイゼンの爪研ぎの何れも必要だと身震いする。

そんな自分は、注意していたつもりにもかかわらず2980m高点でアイゼン紛失に気付く。しかも前に五竜岳で外れかけ、調整しなおした右側だ。OYさんとTYさんが捜索に戻り、数10m上で見つけてくれた。お陰で無事に下山出来た。高度が下がると日光で緩みかけた雪面になり、脚が取られ太腿はパンパンだ。幕営地では皆で乾杯し無事を喜び合った。

(記：OT)

CT：幕営地 5:50 - 蒲田富士 7:10 - 涸沢岳 9:20/9:40 - 蒲田富士 11:35 - 幕営地
12:30

12月31日(日) 天候：雪／麓は雨



予報通り未明から降り出した雪がテントを叩いていた。下山だけの予定であるが、余裕をもって4時に起床し、のんびりと朝食を摂る。大晦日ということもあるのか周りのテントも活動の様子はなく静かである。3本目のガス缶がなくなる6時頃から撤収を開始し、7時過ぎに下山を開始した。

幕営地では十数センチ積雪が増えただろうか、テントを叩く音は大きかったが、それほど湿った雪ではなく乾いた雪であった。下山ルートは急な下りとなるが、適度な積雪が緩衝となり比較的楽

に下ることができた。中間部に急な岩場を下る箇所が数か所あり、時間的にも余裕があったため、安全優先でロープを出し下降した。また、フィックスロープのある急な下りは、積雪が少なくロープが出たため、ロープを補助に下降することができた。

高度を下げてゆくと気温が上がり、雪は雨に変わったが、幸いにも小雨となった。下部は積雪が少なく腰の高さほどの笹藪であるが、入山者が多いためルートが確保されているので、大きなロスもなく下ることができ、3時間ほどで白出沢出合に到着した。その後の林道は、まるで残雪期かのような水を含んだ積雪路ではあったが、予定より早めに新穂高温泉に到着することができた。YN二泊三日の短めな行動計画に加え、天候にも恵まれたこともあったが、冬期北アルプスの三千メートル峰に登頂できたことは、非常に大きな経験となった。



(記：OY)

CT：幕営地 7:11 - 白出沢出合 9:53 - 穂高平小屋 10:27/10:41 - 小鍋谷ゲート
11:09 - 新穂高温泉 11:26

【食事】

12/29(金)夕 OB	野菜ラーメン	マルちゃん製麺醤油4袋 煮卵4個、カット野菜1袋 カットベーコン1袋、ネギ1本
12/30(土)朝 OT	玉子雑炊	アルファ枚2袋 フリーズドライ卵スープ4袋 乾燥わけぎ2袋 大豆ミートミンチタイプ10g 青唐がらし味噌(酸ヶ湯温泉)10g
12/30(土)夕 OY	クリームチー ズリゾット	エビピラフ(尾西)3袋 クリームシチュー(アマノフーズ)2袋 チーズリゾットの素2袋 各種スープ(無印良品) トマトの酸辣湯 5種野菜のミネストローネ 鶏つくねと根菜
12/31(日)朝 TY	鮭雑炊	アルファ枚2袋 鮭雑炊の素4袋 乾燥ネギ、塩昆布、梅肉

【天気】

12/29 小雪のち晴れ 午後から高気圧が近づき雲が取れ、昼過ぎから晴天となった

12/30 晴れのち深夜より雪 行動中は文句無しの快晴。岐阜方面には見ごとな雲海もかかっていた。山頂は予報で風速15メートル。稜線に出てからは動いていないと寒い体感温度となった。日が暮れるころから雲が出てきて、深夜には雪となった。

12/31 雪(登山口は雨) 一時曇り 朝から降雪。テント周辺は15センチほどの新雪(湿雪)。1800メートル付近から雨。

